

平成30年度決算を認定しました

9月定例会では、平成30年度各会計決算を審査する決算審査特別委員会を設置しました。「市の予算が適正に使われたのか」「効率的に行われているのか」「事業の成果は」など、平成30年度の重点施策を中心に審査し、その結果、全議案「認定すべきもの」として本会議に報告しました。審査の主な内容を紹介します。

児童相談の充実

問 家庭児童相談員の4名の配置はどうなっているか。また、どういう資格の方が担っているのか。

答 二本松・塩沢地区、岳下・杉田地区、石井・大平・安達地区及び岩代・東和地区の4地域に分けて、各1名が担当している。また、資格は、学校教育法に基づく大学等で児童福祉、社会福祉、心理学、教育社会学等を修めた者、または、社会福祉主事で2年以上児童福祉に従事した者、またはそれに準ずる者で、現在は、教員経験者や市職員OBが務めている。

ジェネリック医薬品の普及促進

問 ジェネリック医薬品利用差額通知を実施したことによる効果はどうだったのか。

答 ジェネリック医薬品に切り替えを行うことにより、自己負担額が100円以上減額すると見込まれる方を対象に年2回、差額通知の発送を行ったものであり、効果については、平成30年2月から平成31年1月までの医薬品数量での使用率は75.9%で、軽減効果額は、保険者（国保）負担額と自己負担額を合わせて194万780円だった。

合戦場のしだれ桜周辺整備事業

問 駐車場整備工事の計画が、当初より変更となった原因は何か。また、全体工事費としては予定どおり執行できたのか。

答 目的とした市有地の有効活用と渋滞緩和は達成できており、効果的であったと考えている。しかし、当初の予定になかった遺跡が出たということもあり、盤の高さについての変更を余儀なくされた。また、のり面が高くなったことから、安全対策としてガードレールの設置が必要となった。最終的には、当初の4,000万円から2,600万円まで全体工事費を削減でき、経費節減を図りながらも最大限必要な部分の整備を行った予算執行であったと捉えている。

意見 事業計画にあった100台分の駐車場が完成できなかったことは、事業効果が十分にあらわれていないと判断される。事業計画段階で、下調査をしっかりと行い、もっと慎重に事業を進めていくべきであったのではないかと。昨年9月の補正予算成立後に、計画が変更になった時点で、委員会に対する説明がなかった。もう少し、議会に対する説明責任を果たすべきである。



合戦場のしだれ桜周辺に整備された駐車場



決算審査特別委員会全体会の様子

議案などを専門的、合理的、能率的に審査する常設の常任委員会のほかに、特定事件を審査するために特別委員会を設置することができます。

英語指導外国青年招致事業

問 ALTの英語の授業以外での活動の場については、どのように考えているのか。

答 総合的な学習の時間における国際理解に関する活動を実施している中学校もあるが、直接ALTがかかわっていないため、勤務日の調整が必要である。また、事業の目的に、地域の国際化の推進とあるが、現時点では地域貢献や生涯学習などの場で生かされる場面は少ないと考える。地域の方とかわりをもちたいという意欲のあるALTもあり、教育委員会としても機会の提供などしていきたい。

意見 今後、英語力の習得が必須となることから、ALTを増員し、充実を図るべきである。



教壇に立つ英語指導助手のエイリーさん

平成30年度各会計の決算額

一般会計及び特別会計

(単位：円)

会計別		歳入	歳出	
一般会計		32,892,201,284	31,232,398,063	
特別会計	国民健康保険 事業勘定	5,956,260,736	5,806,458,018	
	国民健康保険 直営診療施設勘定	99,736,513	99,251,249	
	後期高齢者医療	617,347,403	615,348,534	
	介護保険	保険事業勘定	6,158,422,787	5,853,665,524
		介護サービス事業勘定	18,561,812	18,136,755
	土地取得	235,555,758	235,555,758	
	公設地方卸売市場	9,533,126	5,730,911	
	佐勢ノ宮住宅団地造成事業	9,617,000	9,617,000	
	岩代簡易水道事業	102,026,245	101,907,546	
	東和簡易水道事業	366,500,818	358,651,916	
	安達下水道事業	246,427,032	246,427,032	
	岩代下水道事業	79,365,424	79,341,126	
	茂原財産区	1,384,143	1,110,065	
	田沢財産区	276,966	206,044	
石平財産区	2,184,671	2,010,549		
針道財産区	236,518	83,149		
合計	46,795,638,236	44,665,899,239		

企業会計

(単位：円)

工業団地造成事業		収入	支出
収益的収支		0	—
資本的収支		702,156,723	702,501,487
宅地造成事業		収入	支出
収益的収支		89	—
資本的収支		—	—
水道事業		収入	支出
収益的収支		1,073,736,593	893,925,134
資本的収支		351,037,422	712,345,150
下水道事業		収入	支出
収益的収支		658,597,179	653,909,349
資本的収支		80,023,008	354,407,553

移住・定住の推進

問 事業の成果は。

答 田舎暮らし体験ツアーに9人参加し、そのうち2人が移住した。その他の県外からの移住者も含め、合わせて11件13人の移住を把握している。

意見 田舎暮らし体験ツアーは大変人気がある施策で評判が良く、移住・定住の実績もあるため、なお一層の拡充を図るべきである。



平成30年度に移住したドカーティ夫妻

道路照明整備事業

問 LED街路灯の整備内容は。また、要望によるものは、どのように対応したのか。

答 当初整備予定のLED街路灯については翌年度に繰り越し、灯具は全てリース事業の中で整備をしていて、令和元年6月からリースを開始したところである。なお、要望等で追加した街路灯の中にはリース事業での管理ではなく、市の直接管理で設置している部分もあるが、平成30年3月までに要望のあった分はリース事業の中に組み込んで一括して整備を行った。

生活道路整備費補助事業

問 申請された方全員が事業を実施できたのか。

答 申請があった方は全て対応ができた。

意見 延長の長い道路もあり個人負担が高額になる方もいるため、それぞれの要件に応じて補助率を上げるべきである。

インバウンド誘客促進事業

問 モニターツアー参加者の内容は。

答 参加者の国別では、オランダが2名、オーストラリアが1名、アメリカが3名、中国が1名及び台湾が5名の合計12名であり、福島県に来訪経験がない方が対象だった。